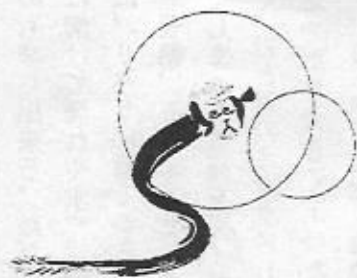




一部50円です

鰻獲り



夕暮れ時、ひとり、川へ下りて行く。畑の土を掘り起こして捕まえたミミズと湿田からすくい上げたドジョウを大事に缶に入れ、川に続く藪をかき分けながら胸をときめかしていた。半時間も下れば誰もいない河原に出る。夕闇が迫る大川の狭い川岸で、蒲鉾板に巻きつけた仕掛けをもつれないようにのぼす。水嵩が多くても少なくとも獲物はかかりにくい。5、6メートルのタコ糸に1メートル程の間隔で釣り針を付けた単純な仕掛けである。仕掛けを沈める箇所はおおよそ決めてある。◆釣り針に餌のミミズとドジョウをつけ、仕掛けの先端を岸辺に茂る柳の根元にくり付ける。もう一方の先に石をつけて、思い切り川瀬に向けて投げる。二つの仕掛けを沈め終わる頃には

はとつぷり日が暮れて、暗闇があたりをおおいはじめていた。駆け足で藪道のをぼって家に急いだ。◆寝る前に母に頼んでおく。「5時に起して!」。早く起きて仕掛けを引き上げなければならないからだ。布団にもぐりながら「大きな鰻が掛かっていたらどうでしょうか? 二匹もいたら籠を持っていかなあかんやろな……」。獲物に想いをめぐらすと、なかなか寝付けぬ。◆翌朝、寝床から飛び起きて川へ急ぐ。鰻が逃げないように用心して静かに仕掛けを引き上げるが、何も掛かっている。もう一つの仕掛けも餌がなくなっているだけで成果なし。釣り糸を板に巻きなおし、残った餌を川にまき「なんで釣れんのやろ?」と自問しながら、しょぼくして急な藪道を帰った。◆次の土曜日、小学校からの帰り道、よーしまた夜釣りを仕掛けてやろうと思いつく。「今夜は釣れるかもしれん。餌は何にしようか」。釣れない理由は餌にあると思っていたので、餌のことばかり気になっていた。「大きな鰻を釣るにはドジョウか大きなミミズが良いに違いないが、何処を掘れば捕らえられるだろうか」と思案しながら、より道をせぜずに早く帰った。次の土曜も次の土曜も、仕掛けの場所を思案し餌に悩み、いろいろ工夫するのだが、夢に見た大きな鰻を釣ることはなかった。◆春の終りを知らせる風に吹かれると、あのときの、大きな鰻を釣り上げてやろうと胸をときめかせ、釣れずにがっかり消沈した鰻獲りことをふと思い出す。◆中学生になっても、夢に見た大きな鰻が忘れられず、川に潜って追いかけたものだ。水中のウロの中から好物の鮎をねらう鰻の目つきはどう猛で、グロテスクだ。そして、ついに大物を釣り上げた。それは、まるで猿のような、滑稽な顔をしていた。(嘉)

『静かな老後』なんて望んでいるだろうか。『心配のない老後』に生き甲斐を見つけてられるだろうか。

必要とされないのだから、爺捨て山を……そんな程度の動機だったのだが、最近、どんな老後が己にやる気や張り合いをもたらすのだろうかと考える。『老いていく』その現実にそういうものが必要のないものと私は思えない。反対に、生き甲斐ややる気を持ちながら『若い』に逆らって生きたい。出来ればそうありたいと思っている。そうありたいのだが。

体力の衰え、記憶力や判断力の低下、病気等マイナスの要素を目の当たりにして、尚、なにくそ! と思うエネルギーを生むものは……。老いを笑い飛ばせるようになるには……。そんな事をつらつらと考えなくもないけれど、雑念にまみれた自分にはそんな悟りの心境は少し遠くにある。ありすぎて、せめても最近では寄席通いして笑っています。笑う事はいい事です。それと、『土』。土を相手に野菜を育て、思うように行かない自然の中で、愛情を注ぎ答えてくれる実りの収穫。これも人を豊かにしてくれる事だと思います。爺捨て山には『笑い』『土』、これは欲しいものです。あと、何が必要なのでしょうか……。

剣岳北方稜線 ①

梵店主

のも早く出来る。ただ衣服についた雪は溶けて濡れやすく、翌朝気温が下ればバリバリに凍るから難儀である。

翌朝、五時エッセンの六時出発、壁の危険がないと思われる僅かな斜面を探して、テントが張れるように雪をならす。

風のとおり道であるから、普段でも風が強い。低気圧がくれば暴風が吹き荒れるにちがいない。岩陰で雪崩の危険がないと思われる僅かな斜面を探して、テントが張れるように雪をならす。

こんな事もあるかも知れないと、ちびて短くなったアイゼンの先を、工学部のグラインダーをかりて削ってきていたが、削った分短くなっていてので恐怖心は更に強くなった。もう先は三センチもないんじゃないか。そう考えると、あのガリーを登るのは無謀な行為のように思えてきた。

重い荷物を担いで、青氷と化した雪壁のガリーを登る装備としては心許無い。

富山から立山連峰を見あげて、中ほどにそびえる高い山が剣岳、左側の山の連なりが北方稜線である。宇奈月温泉からアプローチするコースもあるが長くて日数もかかるので、よっちゃん達は西面の登山基地、馬場島から赤谷尾根に取りついて春の剣を目ざすことになった。

このトラバースは恐ろしい。岩壁のバンドをつたって三の窓のガルに行くのだが、落石の危険のある急勾配のバンドは岩と石ころの極めて不安定な狭いルートなのである。滑って落ちれば池の谷の谷底にたたき付けられる。過去幾人もの犠牲者が出ている危険な箇所である。四十メートルザイルを取り出して固定し、滑っても止まるようにするが、この箇所で滑ればちよつと難しい。何とか無事に通過して三の窓のガルに辿り着いた。

昭和四十七年四月末、リーダーのM蔵、サブリーダーのよっちゃん、二年生の山猿と由ベエ。総勢四名が馬場島を後にして白萩川を越えて赤谷尾根に取り付いた。

雪とブッシュにおおわれた急な尾根が立ちほだかる。大きなキスリング・ザックをかついだままの藪こぎは、ザックが木に引っかかって苦労するが、よっちゃん達は持ち前の体力でほとんど藪をかき分けていった。下界は春であるが、山はまだ冬だ。厚いウール地のシャツとラクダの下着を着ているので、全身から汗吹き出し、よっちゃんの体から湯気が上がる。夜行列車で寝られなかったせい

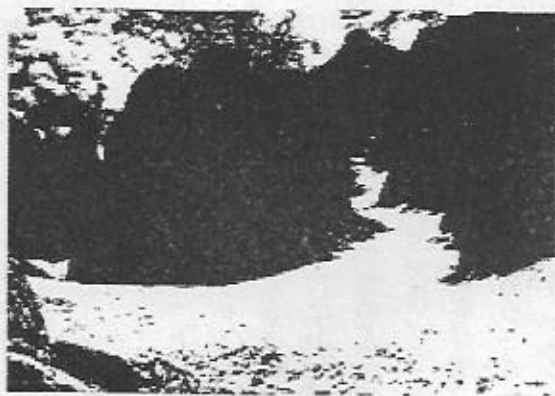
その夜は、気温が下り吹雪になった。えらい事になったとよっちゃんは思った。明日登る池の谷ガリーは急なところだから心配であった。一晩中テントは、激しい吹雪にあおられてバタバタと音をたてていた。幾度か除雪とテントの張り綱を点検するために外に出たよっちゃんは、すぐ傍にある暗闇に眠るガリーのルートを見上げたが、雪と風が吹き荒れているだけだった。足元を見れば、溶け始めた雪が急に冷やされたと、溶け始めた雪が急に冷やされ

たため硬い青氷に豹変していた。よっちゃんのアイゼンは古びた先輩のお下がり先がちびていた。ピッケルも木のシャフトで年代物であった。三の窓というところは大きなガルで

か、次第に身体が重くなる。赤谷尾根の二千メートルを越えた地点でテントを張った。

春の山の雪は新雪と違いザラメ状になってるので、エッセン用の水を作る

させられる羽目になった。



池ノ谷二股 深い谷底は夏も雪におおわれたままだ

いる池の谷は標高差にして千数百メートル。谷の両側は絶壁がそそり立ち、暗くて狭い恐ろしい谷なのである。この谷の上部を「池の谷ガリー」という。よっちゃんたちは「池の谷ガリー」という名を気味悪がっていたのである。

このガリーは、剣岳の北方稜線を縦走する際には避けて通れぬ難所であった。夏場でも落石で危険が多い急な谷が、今は凍てついているのであった。ツルツルの青氷の上を雪が滑って落ちていく。

よっちゃんは、あまりの恐ろしさに身震いした。リーダーのM蔵の「気づけて行こか」という合図で、よっちゃんは先頭を切って登り始めた。テント場からガリーへ一歩を踏み出した瞬間、後を見ることも立ち止まる事さえできないような雪壁の空間である。斜度はきつく氷は硬い。上も下もささえざる物は何も無い。

少しでも滑れば、谷底まで滑落して雪渓に埋もれ永遠に発見されない。

こんな時には、ザイルで安全確保をしたのだが固定する岩も無い。氷に埋め込むスクリュー・ハーケンもない。互いにザイルで結び合って登るのは更に危険だ。一人落ちれば全員が死ぬ。冷たい現実が待っていた。よっちゃんは、全神経を爪先に集中してアイゼンを氷の壁に蹴り込んだが、爪がわずかしこ食い込まない。

担いでいるキスリングは四十キロはあるに違いない。右手で握ったピッケルを思い切り差し込むが少ししか入らない。傾斜が幾分緩やかになる中央寄りにルートを選び直登する。ちびたアイゼンの爪先が僅かに氷に刺さる。

五十メートルばかり登った所で、よっちゃんは立ち止まった。足が疲労と緊張で吊りかけていたのである。すぐ後に山猿、由ベエ、M蔵の荒い息遣いが聞こえる。必死に登ってきているのだ。ここで休むわけにはいかない。いや休める場所ではない。不用意な動作でバランスを崩せば滑落する。早く登り切ることにしか救われる道は無い。

しかし、まだ百五十メートルの雪壁が天空に向かって続いている。下ることは更に難しい。ザックを下るす事さえ出来ない急な雪壁の真ん中に四人はいる。

携帯エッセイ▼◎

「介護の効用」

母の介護は自分の為になった。その一つは家事が出来た様になったことだ。

それを実感したのは先月のこと。生まれした孫の世話のため、妻が家を二ヶ月間、留守にした。その間、料理を作り、洗濯し、植木に水をやり、ゴミを出し、風呂を沸かし、布団を干した。いつも通り、会社勤めをし、晩遅くまで酒を飲み、麻雀(万平荘)もした。それでも家事はさほど苦にならなかった。

むしろ料理は楽しかった。野菜は十分採った。白菜にツナ缶を入れて酒と、ダシのもとで味付けするのが、手取り早かった。飽きたら、ツナの代わりにベーコンやミンチを使った。ミンチは健康に良い鳥肉にした。

ご飯は炊きたてにこだわった。これほど美味しいものはないと再認識した。大根おろしをかけてよし。鯉節をかけてもよし。

料理は美味しくないといけない、と思っただのは、母の「おいしいですなあー」という喜ぶ顔を見てからだ。

母がいない今、自分で作った料理に自分で「うまいですなあー」と心で呟いている。

そして、妻にも「美味しいね」と言うようになった。

俳句

養女

- 発芽した草々の名前 言いあてり
- 水仙も終りを告げる 黄ばみて葉
- 春灯火猫と生活 惜しむ死
- ちよつと暖 今日歩こう梅日和
- 春愁や胸にしまいし同窓会



要るものを要るだけ食べる

藤井寺 笑美

「そのおなかメタボ？」と日常会話になるくらいメタボリック・シンドロームも普通に使われるようになってきました。私の周りでもおなかだけがぼつと出ているメタボ腹の人が結構います。皆さんの周りではどうですか？メタボ腹の原因は、食事習慣や運動習慣などの生活習慣にあるとされています。例えば、食事を考えると一日三回三六五日毎日続きます。一年で一〇〇〇回以上は食べることになりま。一回くらい、少しくらい何でもいいや、好きなおいしいものを我慢するくらいなら、とずっと続き、それが当たり前になり、ついには習慣となり、最後は取り返しのつかないともないことになってしまいます。

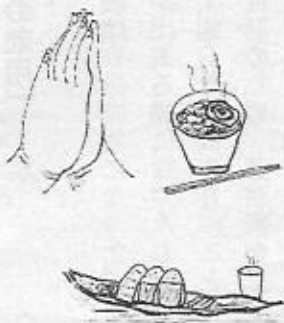
ある社長さんの一日の仕事に要したエネルギーを計算してみると、約四〇キロカロリーでした。朝は車での出勤、パソコンの前で手を動かすだけのほとんど坐ったままでの仕事、帰宅も車、という生活です。しかし、食事はというと、昼食の〇〇定食だけで一〇〇〇キロカロリー以上は十分あります。それと朝食に夕食におやつなど。一日二〇〇〇キロカロリーはゆうに超え

ています。もし、三〇分の散歩をしたとしても八〇キロカロリー程度しか消費しません。ビールを二〇〇、コップ一杯飲んだら、せんべい一枚半食べたらおしまいです。運動に要するエネルギーが少なく、逆に食べ物で取るエネルギーが大きくなっています。動いているように動いておらず、あまり食べていないようでも、知らず知らずのうちに食べ過ぎていっているのです。これがメタボの大きな原因になっているのです。

では、食事はどのようにすればよいのでしょうか？ できるだけ規則正しく毎日三食バランスよく食べる事ですが「言うは易し、行なうは難し」でしょう。バランスのよい食事とは？ 必要なもの(種類)を必要なだけ(量)とする事です。必要なものについては、周知の通りですが、必要な量という事になりますと、少し難しくなります。と言うのも、体の大きさや活動量によって使用するエネルギー量が違い、それにより摂取するエネルギー量も違うからです。ですから正確には、一人ひとり違いますが、おおよその量は、事務労働の人で標準体重に三〇を掛けて計算すると一日の摂取カロリーを出すことができます。日本人の平均摂取量は一八〇〇キロカロリー前後でよいそうです。しかし実際にはそれ以上

上摂取していて、一日に数百キロカロリーの過剰となっているようです。毎日には少ないと思っても、日々積み重なると大変なことになってしまいます。「その一口が〇〇になる」は本当です。適正な食事は、「要るものを要るだけ食べる」という事です。少なくともよくないし、多くてもよくないのです。一日にどれだけ食べられるかを知るのとはとても大事な事です。

貝原益軒は『養生訓』の中で「珍美の食に対すとも、八九分にてやむべし。十分に飽き満るは後の禍あり。少しの間、欲をこらゆれば後の禍なし。少のみくひて味のよきをすれば、多くのみくひてあきみちたるに其楽同じく、且後の災なし。万のむくひて味のよきをすれば、多くのみくひて、あきみちたるに其楽同じく、且後の災なし。万に事十分にいたれば、必わざはひとなる。飲食尤満意をいむべし。又、初に慎めば最後の禍なし」、このように、腹八分目を勧め、節度をもって食事をすると災いなしと述べています。



サラリーマンエッセイ②

酒の席は本当はこわい

明石 幸次郎

今年は何年よりも桜の開花が早くなりそう、この芥川だより三二号が発行されている頃は、芥川の川辺の桜も満開で、花見の人で賑わっているでしょう。

花見と言えば、花見酒と言われるようにお酒が昔から付き物で、花を愛でながらの酒盛りは、酔っ払いも大目に見られるところがあります。

酒と言えば、日本人は何となく酒の席での失態、失言は大目に見るような寛容性(?)が昔からありました。「あいつは、酒に弱いからついつい、いらん事言ってしまうんや。本当はエエ奴なんや。酒が悪いのや、許したってなあ」などと、酒癖の悪いやつ擁護者が入り、酔って言った人の責任、人格は余り厳しく問わない処があるようです。

イタリアでG7に於ける中川前財務大臣の記者会見での明らかな酒による失態は、世界から笑いものにされました。笑いものにされたご本人よりもっと不幸なのが、この未曾有の不況下でこのような財務大臣と、帰国後に大臣の続投を認めた首相を持つ我々国民、

くです。しかも中川先生は、このことで大臣は世論で辞めさせられました。最初は、当初は言い訳で切り抜けようとして、結局何ら責任を取っていません。議員の身分はそのまま、減俸処分とか、何らの制裁処分はなしです。

仲良し議員グループからは、中川は酒好きでローマの休日気分だ、記者会見に臨んでしまったんだ、付いて居た官僚は誰も止めなかったのか？ 逆に官僚に嵌められたのではないかと、言うような身内の中川擁護論(?)も一時は出る始末です。奥さんからは大丈夫大丈夫、日本一と言うように、慰めか激励も受けて、この奥さんの対応が我々中高年のおっさんからは、エエ嫁ハンや(?)と酒の席の話題になっています。

これが、国会議員でなく、民間企業であれば、どうなるのでしょうか。例えば、苦境にあるソニーの財務担当の副社長がニューヨークで経済アナリストと株主を前にして、今期は企業業績が大幅に悪化して大変な状況であるが、ソニーとして具体的にこのような対策を打っているの、来期は業績が回復する見込みなのでご理解を、と言う説明の場で、昼間のランチのワインが効いて、本人はほろ酔い気分であった中川前大臣のように、何を言っているのか分からない説明をすれば、この

副社長は間違いなく帰国後直ぐに解任です。しかも、家に帰れば、奥さんからは離婚を突きつけられるか、家庭内離婚状態になるでしょう。

会社が困難な状況であればあるだけ、企業の責任者は従業員を始めとした、利害関係者に対する責任は重く押し掛かり、大事な会議、会見などが控えていけば、自分の発言の重みを考えて、自己を律して、万全な準備と体調を整えて真剣勝負で臨みます。民間企業では、それが出来ないような幹部を持つてば、企業間競争に生き残れないこともありますが、まず、中川さんのようなタイプはいくら東大を出ていても、社内出世競争の途中で落とされ、絶対に重役にはなれません。

政治家の世界は選挙では、競争裡に晒されているようですが、中川さんのような二世議員は先代が築いた地盤があり、利権で繋がっている選挙民が応援してくれるから、絶対に落ちないし、本人は大臣までなれば、もう安心です。大臣になるような大物(?)議員を選挙民は、酒の失敗くらいでは、大臣からの見返りを期待して地元民は大目に見るのでしょうか。そこには、選挙民との緊張関係も、況してや本人の危機感も他議員に対する競争意識もありません。要は、苦勞知らずの甘やかされたボンボンなのです。

同じような苦勞知らずの世襲ボンボン国会議員の代表の麻生首相は、この不況下の国民が何を政治に求めていることは、中川さんと同じく、頭で分かっている、自分の経験、身体感覚で分からないので、不況対策は結局のところ官僚任せの在りきたりの前例踏襲型になって、国民の思いとは、完全に遊離しているのは明らかです。

責任の伴わない、政治家と官僚が三〇兆円の不況対策を決めて実行して、その効果が現れず、この苦境が何年も続き、国民が疲弊しても、彼等は絶対に責任を取る事はありません。勿論、身分、給与はそのまま保障されます。後に残ったのは、莫大なる国の借金を背負わされる国民だけが、責任という形の重税が押し掛かり、苦勞だけが増え、明日の夢が描かれない日本になってしまいます。

そうならない為に、我々はよく考えて政治家を選び、政治が社会をより良い方向に変えていくように監視しなければいけません。ある意味で社会を良くすることが出来るのは、職業として政治を選らび、これで報酬を得ている町の議員から国会議員のような政治家しかいません。政治家の仕事は税金と云う国民から集めた稀少資源を使って社会をより良い方向に変えていくのが国民から付託された仕事なのです。こ

れが出来ない政治家は国民が選挙で辞めさせなければいけませんし、議員として選んではいけません。

有名なドイツの政治学者マックス・ウェバーは、政治家のレベルはその国民のレベルを現していると言いました。我々は中川さんを選んだ国民として、海外からも国民のレベルを問われているのです。中川さんだけが失笑され、バカにされたのではなく、そのような酒乱大臣を選んだ酒に寛容な(?)我々日本人も笑われているのです。

因みに、日本以外の先進国、お隣の韓国、中国も含め、酒の席での失態、失言はその人を評価して、その人となりや判断される厳しい場です。私は何回も中国の宴席でこれを経験し、大丈夫(中国語では、立派な男の意味)とは、決して中国人からも中川さんと違い、愚妻からも言ってもらえませんでした。

これは、余談ですが、かの酒豪と言われた田中角栄も、日中国交回復交渉後の人民大会堂の宴席で、周恩来から散々オタイ酒で乾杯させられ、酔っ払って失態を晒してしまいました。中国人民からは日本人のトップもこの程度かと軽く見られたと言う逸話が残っています。これは、日本のマスコミは敢えて国民には伝えなかったことですが。



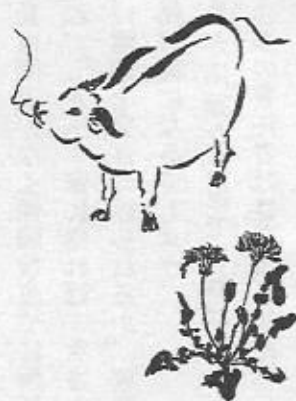
蓮華草が咲き始めると思い出す。田植えの準備が始まる頃だ。私が育った家は、玄関を入ると直に牛小屋(部屋)があった。それが田舎の大方の造りであり、母屋で牛と同居していた。私が高校二〜三年生(昭和四三〜四四年)頃までそうだった。今なら牛舎は別棟であるが、物心ついた時からそうであり、そこに牛が居て何の不思議もなかった。発展途上国を見るようなもので、夏ともなれば家の中をハエや蚊がブンブン飛び回り、衛生面は大層問題があったことだろう。だがその為には大病に罹ったという話は聞かなかった。

牛は、農家においては最も大切にしなければならぬ家畜である。田畑耕作の動力であると同時に現金収入をもたらしてくれる。だからこそ一つ屋根の下で寝起きすることが当然だったのであろう。またその部屋は、家の隅ではなく玄関にあったことから大事な存在だった筈である。

現在トラクターがしていることは、総て牛の力で行っていた。牛の背に鞍を乗せる。鞍には鍬を引っ張るためのロープが付けられている。鍬を力強く引き、土を起こして行く。田の端まで行くと、角から鼻輪にかけて繫いでいる手綱を引く、すると引いた方向に牛はターンする。これを何度も何度も繰返し一枚の田圃を耕してゆく。今なら一日で出来ることを何日もかけて上げていた。

牛も一年ぶりの仕事だ。初日は特に調子が出ない。機嫌の悪い日もある。そんな日は真つ直ぐ歩いてくれない。父が、「おーい、牛の鼻を持ってくれー」と私を呼びに返ってくる。私の出番だ。まだ小学生ながら、顔を左右に振って嫌がる牛の鼻輪を右手でしっかりと掴み、振り解かれそうになりながらも先へと進む。相手は子供と思ひ嘗めている。タイミング悪く、足を踏まれる。負けまいと鼻輪を捻る。きつと痛いのだろう。徐々に大人しくなる。この季節は、大人も子供も牛も一体になって一つ仕事をこなしてゆく。

昭和三十年代まではこうした田植え準備だった。昭和四十年近くなりようやく耕運機での耕作が一般化し、牛や鍬が田圃から消えていった。



ところが彼女は、まだ我家から開放されることはなかった。もう一つの役割が残っている。子牛を産み育てなければならぬ。発情期になると種付けをしてもらおう。父も母も何かの事情で獣医が来る場所へ行けなくなつた年があった。その時を逃すと妊娠させられない。小学五〜六年生だつた私に連れて行けとのことである。恐らく水曜日か土曜日の午後だつたのではなからうか(当時学校は午前中だつたはずだから)。

彼女に先ず手綱を掛けなければならぬ。見よう見まねで仕方は分らない。毎日顔を合わせているとは言え、発情期は普段と違い気が立っている。恐る恐る近づいてどうにか手綱は掛けられた。次は三本の門(かん)を外さなければならぬ。一本外すと出よう出ようところらに向かってくる。二本目を外したところで無理やり巨体を押し込んで来た。まずいと思つたが、そのまま出すしかない。ところが抜けない。巨体で圧迫された三本目の門を懇親の力を入れようやく外すと、彼女は一目散に駆け出す。手綱を手繰り拾い上げ、力いっぱい引き寄せるが止まっては呉れない。子供の力が敵うはずもなく、手綱だけは離すまいと引き摺られるように私は走り続けた。その年上手く妊娠してくれたのかどうか記憶はない。



子牛を一年(多分)育てると、競り市に出す。その日は父が朝早くに子牛を連れ出して行く。彼女は一日中大声で泣き叫ぶ。我が子を数日は呼び続けていた。目に涙が出ているようにも見える。引き離すことが哀想でならなかった。通じるはずもないのに、慰めめいた言葉を掛けながら首を撫でていた。彼女の目の悲しみがはつきり残っている。生きるためとは言うものの、人の都合で残酷なことをしていたのだと今になれば思わざるを得ない。

家畜を育てることも專業化し、直接目にする機会もなく、他の生き物の悲しみを感じ取らずに暮しているが、実態は何も変わってはいない。今もどこかで辛い別れをしている牛達がいる筈だ。人はいつも何かの犠牲の上で命を保っていることを忘れてはならないと、今年も蓮華草が思い出させてくれた。

大空襲

昭和十八年、主人が召集され、入営の前日に簡単な結婚式をあげました。

それから戦争は激しさを増し、主人は南方の戦線へ、私は父の疎開先へと離ればなれになり、互いの消息を知ることはありませんでした。

幸いにも主人も私も戦争を生きのびて、終戦後に再会するのですが、その三年間で忘れられない出来事は、東京大空襲です。それは、敗戦間近の昭和二十年三月から四月に起こりました。

疎開先の信州から東京の家に帰った日の晩のことです。夜半に空襲警報のサイレンが鳴り出して、街の明かりが消えます。暫くすると爆発音が聞こえました。やがて空から火の玉のような油脂焼夷弾がバラバラと雨の様に落ちてきたのです。

身体の弱い姉を運ぶためにリヤカーを引つ張り出して、家の中に入ると、上のほうがメラメラと燃えているではありませんか。「たいへん！ お母さん早く消さないで、すぐに火の手がまわって、あちこち燃え広がってしまうわ」と私は思わず大きな声で母に叫びました。

それから私と母は、手分けして死に

ものぐるいに火を消してまわりました。家のまわりでもみるみるうちに火の手が激しくなり、不発弾が幾つか転がっています。敵機の爆音を聞きながら焼夷弾を火はたきで消している時は必死でした。

周囲の家々がほとんど焼け落ちたにもかかわらず、私の家を中心に五軒だけ焼けずに残ったのです。それは母と私がわが身も省みず火を消してまわったからだと思えます。それから「宮城」の横の日比谷公園に避難しました。あんな怖かったことはありませんでした。焼けずに残ったわが家は、昭和五十年まで住んでいました。

あのときの、雨あられと焼夷弾が落ちてくる光景は、六〇年以上経った今でも忘れることはありません。恐ろしくて仕方がありませんでしたが、とにかく母と二人で死にもぐるいで火を消したのを思い出します。何しろ、いたるところから火の噴き出してくるのです。消化タンクに「火はたき」を浸け、水をかけながら燃え上がる火を消してまわりました。母と私は家中走りまわりました。土足のまま、居間と土間を火を消すために無茶苦茶に走りまわっていたのです。

外では爆弾の炸裂する音がひっきりなしにします。どうにか家の火は消し終わりましたが、他の家は燃え落ちた

り、火は燃え広がっていました。はやく逃げないと危険な状態です。火の合間をぬって逃げなければなりません。病気の姉をリヤカーに乗せて家をとび出しました。家の前で大きな爆弾が炸裂したのを尻目に、一目散に日比谷公園の方へ向けて逃げたのです。

日比谷公園はあまり人影は見当たりませんでした。周りは非常管制の為に真っ暗です。星影の街の一角から火柱が見えました。私の家の近くは銀行などのビルが多く、道路を隔てた店は閉まっていましたので、真っ暗でした。

暫くすると、空襲サイレンも消え、静かになりました。空襲が終わったのだろうと安堵の胸をなでおろしながら、家の方へ帰って行きました。

帰ると、家が焼けずに残っていた。私は「ああ、よかった。一生懸命で消した甲斐があった」とあの時の火の熱さや恐ろしさを思い出しながら、家に向かつて手を合わせました。残ったのは五軒だけです。木造の家はことごとく燃えくずれていました。ですから遠くまで見渡せて、ずっと愛宕山の方まで見えているではありませんか。家の前の店から新橋駅のホームまで見渡せるように家がなくなっている光景にはビックリしました。

近所の知り合いの方々も家がなくなっただけでも、小屋を建て仮住まいをし

ておられたのには感心しました。東京は割とはやく復興しました。

私は、それから信州の佐久という不便な所へ、脳梗塞で身体の不自由な父の介護に付添ふ為に、東京から荷物を背負い満員列車に乗り込んで行きました。あの頃の事を考えると、父も母も私が唯一の頼りでした。親孝行が出来たのも、主人が帰還するまでの一年間ほどこけです。

タイで終戦を迎えた主人は、引き揚げ船で舞鶴に帰還したとき、まわりの人たち「東京はどうなっていますか。新橋あたりはどうですか」と聞いてまわったそうです。「空襲で東京は焼け野原になった」「新橋駅周辺は見る影もない」と聞いたそうです。そんな悲惨な情報を耳にして主人は、もうダメかなと思つたそうです。

急いで大阪に帰り、電報で無事の報告を東京に送ってくれました。私も電報を送りかえし、すぐに帰阪しました。私の姿を見たとき、主人は本当に喜んでくれました。戦争で離ればなれになつていた三年間の空白がいつべんに埋められたような思いがしました。

友人の紹介で縁ができて結婚した私たちは、戦争という大きな障害のために結婚生活のスタートが遅れましたが、いよいよ平穏な家庭生活が始まるのです。

クイズ 高槻城主和田氏没落

福嶋 努

室町幕府の時代は最終段階でしたが、戦国乱世はまだ続いておりました。一五六八年（永禄十一年）、織田信長は、天

下統一の野望をもって、足利義昭を奉じて入京、高槻の芥川城に入って畿内平定に乗り出したのでした。和田惟政（芥川城主・翌年高槻城主）、伊丹親興（伊丹城主）、池田勝正（池田城主）の三人を摂津守護に任じ、摂津の国（摂州一三郡）を分割統治させました。信長は、摂津の

国をして、強敵石山本願寺と対峙する第一線とし、さらに本願寺と通じる毛利氏と対抗する体制を築きあげようとしたのでした。

しかし、戦国の世の常のことでありますが、摂津の国の各地域に於ても、勢力争いが跡を絶たず、それに織田信長と將軍足利義昭の対立が絡まって、やがて大きな抗争に発展していきましました。一五七一年（元龜二年）八月の白井河原の大合戦がそれで、その後の摂津の国の支配のありかを大きく揺るがす、きびしい戦いでありました。

茨木氏、伊丹氏を支持する和田惟政は、東軍の総大将で、一方、西軍「池田二十一人衆」側の大將格は荒木村重でし

た。村重という人物は、その父は浪人の身分だったらしいのですが、摂津池田の城主勝正に仕えたところから頭角をあらわしてきたとのことでした。

戦いの結果は西軍が勝ち、村重は、これ以降摂津地域の支配力を一層強めていくことになりました。

高槻城主和田惟政は戦死してしまいましたので、惟政の嫡男惟長が父のあとを継いで城主となりました。この時、惟長は（①）の若武者でありました。『陰徳太平記』によると、「父に劣らぬ優れた剣の使い手であった」ということです。

二年後の一五七三年（元龜四年）の春には、和田氏の家臣高山飛騨守と右近の父子が、和田氏の敵である荒木村重と通じ、示し合わせて、和田惟長を追放してしまうという事件が起こります。ルイス・フロイスでさえも、『耶穌（イエズス）会士日本通信』で「少なからず驚かすべきの他の不思議なる事件起りたり」と大いに驚愕して述べているほどのことでした。

信長と対立した將軍義昭の味方であることを最後まで貫き通した和田一族が、これで高槻城から完全に消えてしまいました。そのあとは、追放の後盾役を果たした荒木村重の命のもとに高山飛騨守が、城主になりました。この年の七月には、織田信長によつ

て、最後の將軍義昭は追放されてしまいい、幕府は滅亡しました。義昭自身は、信長に擁立された一五六八年（永禄十一年）から五年間の將軍職にありました。

足利尊氏以来二百三十年の室町幕府の歴史に幕を閉じたのでした。

戦国の下剋上の風潮のもと、機を見るに敏な荒木村重は、短い年月の間に摂津全土を支配し、とうとう信長から国守を任せられて、野望を果たすことが出来ました。信長自身の天下統一の野望は、家来である村重の野望実現によつて一歩前進していくことになったのです。

【問】文章の（①）に当てはまる言葉を次のア・イ・ウから一つ選んでください。

- ア、十五才前後
- イ、二十二才前後
- ウ、二十五才前後



「天下布武」の朱印が押された信長の書状。武力による天下統一のつよい意思をあらわす。

☆ 芥川だより31号のクイズの答えは（イ：高槻城）でした。

・エヴェレストという山（五） 十九〜二十世紀におけるチベット情勢

科野 山猿

「エヴェレスト」という山名は最高峰の名として世界中に知られていますが、この英国人名に由来するマウン・ト・エヴェレストは、たとえばパミールのピーク・レーニンとかピーク・スターリン（コミニズム峰）と同じように違和感がぬぐえませんが、山名というのはその土地に根ざした固有名詞ですから、やはり麓に住む人々の呼称する名がふさわしいでしょう。異国人が勝手に名づけられるものではありません。エヴェレストならば、チョモカンガルとかチョモランマというチベット名にすべきところでは。

そうかといって、「エヴェレスト」の登山、あるいは登山史を語る時、山名をチョモランマなどのチベット語に置き換えるわけにはいかない。「エヴェレスト」が英国人の軽率な命名だったとはいえ、登山が試みられる頃にはその名が人々の間に深く根を張って、定着してしまっていたからです。エヴェレストは世界最高峰であり、ジョージ・エヴェレスト卿の肖像を思い浮かべる人はいません。わずらわしいですので、カギ括弧を、

くはずして、山名エヴェレストで話を進めていきます。

十九〜二十世紀にヒマラヤを含む中央アジアで活躍した探検家は、ほとんどが軍人です。彼らの活動は、英露が対立するいわゆる「グレート・ゲーム」と深く関わっています。

陽の沈まない国といわれたイギリスはインド亜大陸を版図におさめ、北に膨張していきました。やがて、北東部ではヒマラヤをはさんで東の大国、清と接触し、西北部はカラコルム、ヒンドゥ・クシュの山脈をはさんで、北の帝国ロシアと対峙するようになります。ロシアは勢力を南に広げていたのです。このせめぎ合いがグレート・ゲームです。このゲームに翻弄されるのがアフガニスタンであり、チベットです。

チベットは、英国やロシアが接触する十九世紀後半までは中国、モンゴル以外の国と交流がなく、清朝の統制下にありました。独立国ではありませんが、現在よりはるかに高い自治が維持されていたのです。内部に目を向けると、ダライラマの存在は事実上無視され、名代としての摂政が政治権力を一手にし、その実権をめぐって不正が横行したり、ダライラマが成人するまでに殺されたりした暗い時代だったのです。その暗黒時代に終わりを告げたのが、十九世紀末に即位したダライラマ十三世です。

権力の座についたダライラマ十三世は清の宗主権を拒否し、独立を主張しはじめます。やがて、北からは帝政ロシア、南からはイギリスが接触しはじめると、三つの大国の狭間で翻弄されることになり。とりわけ一九〇三〜四年、F・ヤングハズバンド——エヴェレスト

登山実現に大きな役割を果たす人物です——率いる武装使節団がギャンツェおよびラサに進駐した事件は、チベットに大きな衝撃を与えました。この進駐は、インド提督カーソン卿が帝政ロシアのチベット進出を阻止するために派遣したのですが、チベットの対応が頑迷だったとはいえ、やはり英印政府の傲慢で卑劣な軍事侵攻でした。カーソン卿は、インドからできるだけ遠いところでロシアと直接対峙するために絶えざる前進を主張する強硬派で、アフガニスタン戦争では多大な犠牲を払って敗北しています。ヤングハズバンドとアフガン戦争については次回に触れます。

英軍のラサ侵攻で、ダライラマ十三世は、ロシアに保護を求めてモンゴルに逃れますが、ロシアの援助のないまま、やがて清の命令で北京に赴きます。一方パレンチェンラマ六世は英印政府に保護を求めたため、ダライラマ十三世との間に理めがたい溝が生まれ、これが以後の両ラマの長い対立の始まりとなります。ダライラマ十三世は一九〇九年にラサに

もどるまでの五年間、空しく中国各地で過ごしました。その間、清は宗主権の回復工作を図り、英国もロシアもそれを認める方向で手を打っていたのです。

ダライラマ十三世がラサに帰った翌年の一九一〇年、今度は宗主権確認のために四川省の趙爾豊軍がラサに派遣されてきました。そのときダライラマ十三世は、敵であつたはずの英領インドに保護を求め、難を逃れるのです。清朝はダライラマを罷免し、パンチェンラマをラサに招きますが、一九一一年に辛亥革命が起り、清は崩壊してしまいます。その間隙についてダライラマ十三世は一九一三年にラサに戻り、独立を宣言するわけです。しかし中国がチベット独立を認めるはずはなく、また英印政府も従来の外交的経緯から独立を承認しませんでした。

当時のチベットをめぐる国際情勢を俯瞰すると、英国はインドに向かって南下するロシアを脅威ととらえて、チベットにアフガンのような緩衝地の役割を担わせようとしていたのです。つまり、チベットにはいっさい内政干渉をしないという条約をロシアと結ぼうとしていた。実際一九〇七年に英露条約を結びますが、次は警戒していなかった清朝がチベット政策を急転回させ、宗主権を回復して帝国の一省に加えようと反撃に出てくるわけです。やがてチベットに対

する実権を清朝が握り、ダライラマ十三世はインドに逃れ、英国はチベットという緩衝地帯を失ってしまいます。

清朝は一九一一年に崩壊し、一九二一年中華民国が成立します。そして英国は一九一三年にインドの避暑地シムラにおいて英中蔵の三者会議を招集し、ふたたびチベットを英中間の緩衝地にしようとして、圧力を受けて中国は出席させられ、チベット代表も出席しました。英国のねらいは、中国の宗主権を認めながらも実質的にチベットを英印政府に従属させ、中国とロシアを効果的に閉め出すことにありましたが、中国は議案を批准することはなく（中国代表は強制的に署名させられていますが）、三者協定が結ばれることはありませんでした。シムラ会議の翌年、第一次大戦が勃発します。

当時のチベットをめぐる国際情勢を俯瞰すると、英国はインドに向かって南下するロシアを脅威ととらえて、チベットにアフガンのような緩衝地の役割を担わせようとしていたのです。つまり、チベットにはいっさい内政干渉をしないという条約をロシアと結ぼうとしていた。実際一九〇七年に英露条約を結びますが、次は警戒していなかった清朝がチベット政策を急転回させ、宗主権を回復して帝国の一省に加えようと反撃に出てくるわけです。やがてチベットに対



西チベットの聖山、カイラーサ

二人分

「狭いながらも楽しい我が家」
そんな団欒は遠い昔を思わせるのみ。私が嫁入りして来た当時の家族構成、犬、ネコ、にわとり、目じろ、ほほじろ、十数匹。

何事にも目を見張ることばかりだったが、今はガランとした家の中。息子達も、ガラクタもどこかへ。とうとう私も一人になった。

NHKテレビ番組「きょうの料理」で紹介している料理の材料の目安をこれまでの四人分から二人分にへらすという。一世帯の平均人数が二・六人に減り、視ている側も二人分を望むようになったためという。そういえばいつの間にか、雑誌等のレシピの分量も五人分が四人分になっていた。思えば我が家も同じだ。少子化は淋しいけれど、二人分は夫婦の単位と思えばいいし……。

「今日は多めに作ろう」と台所に立ち、目安の分量を一・五倍、二倍とかけ算で増やしたり、引き算をしたり、手の指を交えてみたり、こういうのも結構楽しいものである。私の側で古びた五つ玉のソロバンが大きなアクビをしている。

もう一度郵政選挙やりますか

人間にだって裏あり表あり、それが当然と思っていたが、寝起きの時のような、うつろな目、質問にも、ろれつが廻らない場面をニュースで目にした中川財務金融相のあの醜態。

「なに……」それと思わず声にしてしまった。

風邪くすり、酒の量ではない。日本を代表する立場で出席し、言動が世界に発信される大臣が、国際舞台で日本の恥をさらしたこと、「百年に一度」と言われる経済危機。私達の生活は日増しに苦しくなってくる。年寄りの懐の金、むさぼり回収するのじゃない。「天引きの保険にゆれる高齢者」

重責を引き継ぐ与謝野馨経済財政相さんにはしつかり頑張ってもらいたい。

予算の早期成立や景気対策に「待った」は許されない。大岡裁判じやあるまいし。

愛犬

外から帰ってくると安べえーが走ってそばによってきます。

そして思い切り甘えてきます。とってもかわいいです。気持ち

安らいできます。

気持ち柔らかくなった私は、おもむろに安べえーに頬ずりします。でも、安べえーは、うるさいといっています。

感情は出し惜しみしないで表わすのがいいようです。教えられます。



4月の芥川商店街の催し

☆☆☆

第18回

こいのぼりフェスタ1000

芥川桜堤公園

期間・4月25日(土)～5月5日(火)

4月29日(祝)は、色々なイベント

が催しされます。屋台やパフォーマ

ンス等・・・お楽しみに♪

☆☆☆

13日(月)14日(火)15日(水)

『夏のワンピースあれこれ』

身体をしめつけないリラックスシルエット

がお勧めです。丈を短くしてパンツと爽快

に着こなしてもステキですね♪

着物から服を仕立てます 荒～ほん～

私の好きな詩

夢がある人には 希望がある
希望がある人には 目標がある
目標がある人には 計画がある
計画がある人には 行動がある
行動がある人には 結果がある
結果がある人には 反省がある
反省がある人には 進歩がある
進歩がある人には 夢がある

編集後記

今年も花見の季節がやってきました。桜といえば、笹部桜を思い浮かべます。水上勉の小説「桜守」になった桜です。この桜の植樹に貢献された方の奥さんに長く御最良頂いた。今年こそ、宝塚の桜公園で満開の笹部桜を見てみたいものです。(嘉)